

平成20年度宗像支部研修会の報告

宗像支部 小宮 一臣

宗像支部では、平成20年8月4日(月)に、お二人の講師をお招きし、研修会を行いました。県及び市会員あわせて25名の方に参加していただきました。

一人目の講師として、福岡県の輸出促進事業のアドバイザーを務める貿易コンサルタントでアジアネット代表の田中豊氏に、「地域資源を生かす、つなぐ ― 地方活性化への挑戦」と題し、ご講演いただきました。

福岡県の農産物とアジアとの関わりという内容で、土木行政とは違う業種において、今起っている事を知るいい機会でした。現在アジアの経済が成長を続けており、その中でも大都市といわれるところは文化や言葉は違うが、細かい街の様子、人々の見た目（特に若者）は、以前と比べると同じ雰囲気になってきており、日本とアジア（特に東南アジア）の若者文化が似通ってきているという事でした。

その一方で国内マーケットは縮小してきており、すでに海外、特にアジアに日本式の流通・小売りサービス業が進出している現状があり、福岡県の農産物も売り出し始めています。福岡からの農産物は、現地ではかなり値段が高くなるが、普通に店頭においてあり、よく売れるという現実があるそうです。

今までのような、閉鎖的なやり方で日本の農業を守るのではなく、日本の（福岡の）農作物資源を海外に売り出す事が、福岡の農業を守り発展させていく事となるだろうというお話をさせていただきました。

二人目の講師として、前九州産業大学教授、現財団法人高速道路技術センター顧問の奥園誠之氏に、「法面工の盲点と対策 ― 切土のり面の維持補修」と題し、ご講演いただきました。

のり面崩壊に対し、どういった点に着目し、注意しなければならないか等、これから私たちが土木技術者として経験するかもしれない話がありました。

道を作る中では、切土法面、盛土法面が発生するが、道路供用後の法面崩壊発生率の過去のデータをみると、盛土は完成直後の発生率が高く、その後急速に減少傾向となる、いわば「雨降って地固まる」のに対し、切土は地山を切り取った瞬間から時間経過とともに風化等が進行するため、完成直後から発生率の減少傾向は鈍く、集中豪雨の年に増加する傾向があるそうです。特に切土法面の崩壊は下部の施設に対して、人命にかかわる災害を引き起こす事が多いため、維持管理上の目視・点検のポイント等、実務を行う上で参考となるお話でした。その中でも、実際に法面崩壊があった現場の紹介がありました。調査員が調査を行うために現場に近寄り、二次崩壊に巻き込まれたという事例では、実際私たちの身の上にも起こりかねないことを痛感しました。

その他、法面の要注意箇所、崩壊の前兆、異常時の点検管理方法等、実践者でしか話せない内容であり、私たちの実務に直結したお話をさせていただきました。

以上、平成20年度宗像支部研修会の報告でした。お忙しい中、宗像支部会員の皆様のご参加ありがとうございました。